

## 家庭科

### 安全な住まい 住まいの安全対策災害への備え生活

#### 1、災害に備えて家族で話し合ったことを書こう。

・学校の行き帰りに災害が起こった時に備えて、生徒手帳に両親の携った電話の番号、身元を証明するためのものを紙に書いて入れている。  
・もし家族がバラバラなときに災害が起きたときに、一番近くの小学校へ集まろうという考えが出た。しかし、そこに行くにはおみさりをおこなう必要があるので、電車がとまっていたら聞かない。  
・ということで一番目に近い小学校を集合場所にしようということになった。  
・非常持ち出し袋に何を入れ、どこにおくかを話し合った。家族3人分袋を作って、役割分担をして(例えば、父は重いもの)それぞれ中にもものを入れた。また、次に袋を手にとって逃げられるよう、玄関におくことにした。

#### 2、非常持ち出し袋には、何を入れたらよいだろうか。よく考えて書こう。

・ペットボトル(…災害時には十分に水を手に入れられないから。3日分くらいあればいいと思う)  
・食料(…非常食を入れておくべき。水と同様、災害時には簡単には手に入らない)  
・簡易トイレ(…東日本大震災でも問題になった。自分だけでなく周りの人の役に立てる)  
・軍手、ホイッスル(…何かの下じきになってしまった時に、身を守るため)  
・レインコート・ブランケット(…冬に災害が起こった時、寒さから身を守るため)  
・はんそうこう、包帯(…けがをした時、簡単にその場をしのぐことが出来るため。)  
・マスク(…くまもと地震でかんせん病が問題になったため。)  
・ラジオ(…手回しかソーラーがよい。その時の状況を知るのには大切だから。)  
・かいちゅうでんとう ・AHLメット

#### 3、災害に備えて今できること(大切だと思うことを記録しよう)

・非常用持ち出し袋の中を定期的にとりかえること。(なぜなら、水、食料はとくに、使用期限があるものは定期的にとりかえないと、本前に災害が起きた時、大変なことになるから。)  
・家具を壁にはきょうする(たんす、本棚など大きな地震が起きた時、たおれてしまう。自分が下じきにならないため、ひなんけいを確保するために、はきょうするといふ。)  
・家族としっかり話し合っておくこと。(ひなん場所、連絡方法の確認など事前に話し合っておくことで、実際に災害が起きた時、あわてずにしっかりと自分で自分の身を守ることが出来る。)  
・地域の方々とコミュニケーションをとること。(家にいるとき災害が起こったら、地域の方々と協力することが大切だと思う。大人の意見もきけるし、自分より小さい子を助けることが出来るので、普段からコミュニケーションをとることが大切である)

#### 授業の振り返り

先生が紹介して下さった非常用具の中でも、知らないものが多かった。災害時には自分の身を自分で守る必要があるため、非常持ち出し袋には不足がないように普段からチェックを心がけたい。また、最近では東日本大震災、熊本地震とひんぱんに地震が起きている。首都圏で直下型地震が30年以内にかかるとも言われているので、物だけでなく、心の準備もおこなうようにしたい。上に答えた、災害に備えて今できること、を参考に、家に帰って家族ともう一度話し合いたい。  
いままで遊んでくんなんでは、あたしを守れと言われるが、人間の危険は手首だということに改めて気付かされた。本番だけでなく、くんなんでもこれから、このことに気をつけてみようと思う。  
今回の授業は、この先、ずっと頭に入れておきたいと思う。

水食料トイレ

公園トイレ(増)

「ガリツツツ」

雪→危ない

水道止

家庭科

# 安全な住まい 住まいの安全対策災害への備え生活

## 1、災害に備えて家族で話し合ったことを書こう。

地震時

- ・災害時家族・親戚の電話番号を常に携帯し、連絡が取れるようにしておく。お集まり場所も把握
- ・非常持ち出し袋の中身こまめに確認する(賞味期限が切れるときの缶詰やレトルト) (学校など)
- ・家は「家族・友人や他人でなく自分」である。→災害時はまず、先に自分の身を守る。
- ・防災の学習で学んだ事(倒壊し家具の危険な場所、ロープの活用)を実践しておく。
- ・「東京防災」を熟読しておく。非常持ち出し袋に入れておく。
- ・外にいる時は、高層ビルビルの下には極力行かない(物が落ちたりすると危ない)。
- ・一人に頼らない。協力してくれる他人と行動を共にする(精神を落ちつかせる。)
- ・自分の身の回り(身につけているものなど)は無視し、とにかく「速やかに安全な場所へ移動する」。

## 2、非常持ち出し袋には、何を入れたらよいだろうか。よく考えて書こう。

- ・簡易トイレ → いざという時に我慢するのは辛い！。スリッパ → 足を守る。(新聞紙で作れる！)
- ・軍手 → 手を守る。時には防寒にもなる？
- ・缶・カップル → 番台や缶蓋をすくって水を取る。防水グッズも便利？
- ・ロープ → 物をつり下げたり、非常時は汎用性抜群。東京防災地図(目録も重要)
- ・緊急道具(ズリ) → 応急手当のやり方覚える。
- ・レスポーター(防寒具) → 素材が暖かいものを  
→ 両足と使える。毛布
- ・ラジオ → Y-ラー。手回し発電機がある。懐中電灯
- ・下着 → 汗ばかきかきあると快適
- ・帽子 → 頭を守る。夏には便利？
- ・水食糧。電話番号リスト(711など)
- ・新聞紙。折り紙。消火器。ロウソク。マッチ。ライター。

## 3、災害に備えて今できること(大切に思うことを記録しよう)

- ・家具に倒れるのを防ぐために、固定しておく。
- ・ガリツツツの位置。避難場所を確認しておく。(地震地帯について)
- ・親戚の連絡先を把握しておく。
- ・屋内(廊下)の身回り方を確認する。
- ・避難用具は「本どまり」一箇所に置く。分かりやすい場所に設置する。火消し器も確認する。
- ・自宅の近所の人と知り合いと災害時について話し、互い自宅が地震が起きたときにいかに行動するかを整理しておく。
- ・「東京防災」を読んでおく。
- ・「防災イベント」(緊急、消防などが開催している)に積極的に参加する
- ・「想定が7段階...」について学ぶ
- ・「身を守る」(緊急、消防などが開催している)に積極的に参加する
- ・「落ちては危険！」。身の回りには物がぶつかるといけない。



### 授業の振り返り

気づけること  
(感想)

- ・間接地震、熊本地震などを教訓に、いつ降りかかるかわからない地震に備えるには
- ・何よりも先に自分の身を守るために、最大限身を守る(毛布を使ってもいい)
- ・人に頼りすぎることを忘れない。一人だけじゃなく。(人とのコミュニケーションの因子！)
- ・日常生活に慣れてしまっているものが、非常時には危険になることもある(火災、家具など)ので、自分の身を守るから速やかに避難することを知りたい。過去の被災者の方の経験談や「精神的」はダメージが危険だと思つて、被災しても自分の命が、たら平常時に備え、人とのコミュニケーションを忘れない。休日には避難場所を確認し、中学生より若い年代でもあるので、人工地震は倒壊し立派に耐えることが必要だ。だから地震を恐れず、冷静にあらゆる備えが必要に備えたい。